

学外研修報告書

フィールド科学系部門 生物科学班

山口 信雄

第 64 回日本生化学会近畿支部例会およびテクニカルセミナー 報告

1. はじめに

質量分析装置を担当するにあたり、原理および装置の習熟のみならず、最新の手法および関連製品、これらを用いた研究の傾向などの情報収集を常に行う必要がある。今回は質量分析装置を開発している企業および最先端の研究を行っている大阪大学蛋白質研究所が主催として開催するセミナーおよび学会シンポジウムに参加し、配属先で活用できる知識・技術の習得を試みた。

2. 期間・場所

期間：平成 29 年 5 月 26 日～27 日

会場：千里ライフサイエンスセンターおよび大阪大学理学部

3. 参加者等

テクニカルセミナー（90 名）、生化学会近畿支部例会（150 名前後）

4. 研修内容

第 64 回日本生化学会近畿支部例会は「タンパク質を極める」というテーマが掲げられており、日本の

生化学を牽引する3名の研究者と蛋白質研究所の研究者による特別講演ならびにシンポジウムが行われた。テクニカルセミナーにおいては「質量分析を中心とする分析法における微量試料の取り扱い」を主題として、各分析機器メーカーの担当者による実践的なセミナーが行われた。

5. まとめと感想

これまで20年以上にわたって遺伝子及びタンパク質を用いた研究及び業務を行ってきたものの、小規模研究室でも実施できる手法を主としていたため、質量分析装置のように高価で専門知識を要する装置に関しては、概念的・基礎的な理解に留まっていた。この20年で分析装置は解析理論やコンピュータの発展と共に飛躍的な向上を遂げ、できないと思いついでいた分析も可能になり、思いもよらぬ応用も行われていた。特に微量試料の解析は数桁違いに微量の試料から高精度な分析が可能となっていた。今回はその現状を確認できた。さらに試料前処理に便利な各種キット等の詳細と比較などもあり参考になった。